



福岡アジア美術館

Fukuoka Asian Art Museum

はたらきたい！

2009年4月2日（木）～6月9日（火）

アジアギャラリー B

はたらきたくても、はたらけない。はたらいても、やっていけない。

そんな経済不況にあえぐ今の日本には、経済成長をめざした時代のはたらき方とはことなるはたらき方が求められています。最近、日本では、再就職の道に漁業や農業を選ぶ人も増えています。本展では、魚を捕って食べ、土を耕して生きるこうした原初的な肉体労働などを描いたアジアの美術作品から、はたらくことをもう一度考えてみたいと思います。

アジアの美術では、近代以降、日常的な労働が絵画のテーマとして描かれるようになりました。社会主義の時代には、労働を賛美する表現がなされ、大量生産・大量消費の時代には、疲弊していく労働者を前に社会に警鐘をならす作品などが描かれました。漁業や農業、工業の現場で汗を流して身体をうごかす、アジアのさまざまな「はたらく姿」をとらえた 27 点の作品をとおして、今のわたしたちのはたらき方をふりかえることができればと思います。

漁業——海や河へ舟で漕ぎ出し、魚を捕って生計をたてる。

ドアン・ジョンチュ（段正渠）
「黄河の船頭」
油彩・画布

中国
1994

カリル・イブラヒム
「東海岸 2」
バティック・画布

マレーシア
1978

工業——工業化にあこがれた時代。工具や重機を使って鉄を加工し、肉体労働に励んだ。

セレーテリン・ダグヴァドルジ
「チアフンドルジの肖像」
油彩・画布

モンゴル
1986

ダン・ティン・トゥオン
「都市の建設」
彫漆・板

ベトナム
1979

ジャオ・ジエンション（趙建生）
「造船」
木版・紙

中国
1973

ハオ・ペイジュン（ 丕君）
「造船」
木版・紙

中国
1973

ジョン・ホワンユエン（鐘煌元）
「クレーンを組み込む」
木版・紙

中国
1973

ジョン・ホワンユエン（鐘煌元）
「クーリー（苦力）」
漆・板

中国
1932



セレーテリン・ダグヴァドルジ 「チアフンドルジの肖像」 1986

閉鎖された工場で——あの工場ではたらいだ日々は、何だったのだろうか。

チェン・ジエレン（陳界仁）
「工場」
16mmフィルム（DVD変換）（30分）

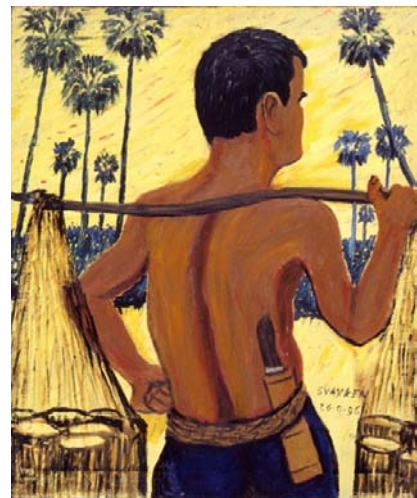
台湾
2003

労働社会問題——つらい思いをして、奪い合いのなかで生きる。そんなはたらき方しかできない社会なのか。

エルマー・ボルロンガン 「D.H. (家政婦)」 アクリル・画布	フィリピン 1993	リン・ムホア (林木化) 「暗黒の生活が本来のものなのか」 スクレイパーボード	シンガポール 1958
カマル・アハメド 「社会の顔」 油彩・画布	バングラデシュ 1996	モハマッド・マハブブ・ラーマン 「社会のシステムの終わり」 セメント、木	バングラデシュ 1991
アヌパム・スード 「後部席の窓」 エッチング、アクアチント、インタリオ・紙	インド 1992		

農業——畑を耕し、米をつくる。男も女も、日々食べるものを、自分たちの手で育てる。

スヴァーイ・ケーン 「もみを蒔く少女」「もみをふるう少女」 「椰子ジュースの収穫からの帰り道」 油彩・画布	カンボジア 1996
カッティンゲリ・クリシュナ・ヘッバル 「牛乳運びの娘」 油彩・画布	インド 1942
アグス・ジャヤ 「水田の帰り」 油彩・画布	インドネシア 1944
ヨン・ムンセン (楊曼生) 「共同作業」 油彩・画布	マレーシア 1946
BRAC (バングラデシュ農村向上委員会) / アーロン デザイン・制作 「農村女性の仕事/壁掛け」 布に刺繍	バングラデシュ 2000



スヴァーイ・ケーン
「椰子ジュースの収穫からの帰り道」1996

休息——足をやすめ、ほっとひと息。はたらいたからこそ、安らかな休息。



ミン・ウェー・アウン「仕事を終えて」1994

チェン・ウェンシ (陳文希) 「休息」 油彩・画布	シンガポール 1950年代
イェン・リー (嚴力) 「労働者の休憩」 油彩・板	中国 1980
ルアンラット・コンパット 「仕事を終えて」 油彩・画布	ラオス 1993
ミン・ウェー・アウン 「仕事を終えて」 油彩・画布	ミャンマー 1994
サウ・ハライン 「牛飼いの少年」 水彩・紙	ミャンマー 1994

いろいろな仕事——知らなかった、福岡に住むみんなの仕事。

プッティポン・アルーンペン 「みんな知り合い」 DVD (57分)	タイ 2007
---	------------